

北海道プライムバイオコミュニティ



令和7年5月

北海道³連絡会(Hokkaido Cubix)

主な活動実績(令和5年10月～令和7年4月)と今後の方向性①

北海道³連絡会（Hokkaido Cubix）によるステークホルダーの取りまとめ

【実施状況・現状分析】

- **R5.10 2機関が新規参画**
・北海道マリンイノベーション(株)とFloatmeal(株)が新規参画。
- **R6.6 産総研LS-BT合同発表会での講演**
・北海道プライムバイオコミュニティの取組内容等について講演を実施。
- **R6.7 バイオコミュニティ推進会議を開催**
・構成機関を参集し、各機関の取組紹介等を行い連携を強化。
- **R6.10 認定バイオコミュニティ連携会議を主催**
・第3回認定バイオコミュニティ連携会議を主催し、今後の活動等について意見交換や情報交換を実施。

【今後の取組方針】

- **バイオコミュニティ推進会議**
・年1回程度、構成機関を参集し、コミュニティの活動に関して情報共有を図る。
- **バイオコミュニティ内及びバイオコミュニティ間の連携強化**
・構成機関同士のシナジーを高めるため、各分野の新規参画を促す。また、バイオコミュニティ間の共通課題への連携を模索する。課題へ取り組む。
- **スタートアップの可能性を模索**
・バイオコミュニティの目標達成や課題解決に資するスタートアップ組成の可能性を模索する。

農業・食産業のイノベーションによるレジリエントな地域産業創成を実現する研究・人材育成

【実施状況・現状分析】

- **R6.10 北海道大学とクボタアグリフロントでのスマート農業体験イベント実施**
・小中学生を対象にスマート農業機械を操作するなど、未来の農家の一日を体験するイベントを開催。
- **～R7.2 北海道大学スマート農業教育研究センターのスマート農業研修実施**
・北海道内外各地においてスマート農業機械の実演も交えた研修会を実施。
- **R7.3 フードロス削減コンソーシアムがフォーラムを開催。**
・フードロス削減コンソーシアム（北大、(株)セコマ、道総研、ノーステック財団）が、第5回フォーラムを開催。また、北海道大学が開発したプラチナ触媒による鮮度保持技術を活用したフードロス削減のアイデアやフードロス削減につながるこれまでにない独創的な実証アイデアを高校生から募るアイデアコンテストを開催。

【今後の取組方針】

- **フードロス削減**
・引き続きフォーラムを開催し、保存技術に関する情報提供を行うとともに鮮度保持技術の普及を図る。
・「プラチナ触媒」によるフードロスの削減事例や、触媒活用事例について、会員や高校、高専での表彰を実施する。
- **農業従事者育成**
・スマート農業教育研究センターでは、現役農業者や教員向け研修、オンライン講座、スマート農業教本の作成など引き続きを実施する。
・道内でワインづくりに携わる人に対し、栽培・醸造技術及びマーケティングを中心とした経営力のレベルアップにつながる研修を実施する。

主な活動実績(令和5年10月～令和7年4月)と今後の方向性②

「未来型うみ街」創生で光る地方産学官連携

【実施状況・現状分析】

- **R5～ 北海道大学地域水産業共創センター活動**
 - ・産業界と本学が協力して推進する研究開発および人材育成、ならび行政と本学が組織的に連携して取り組む地域社会の課題解決および新しい価値の共創に資する産学・地域協働コーディネートを推進。
 - ・R5年度における産学官の面談対応実績：延べ501回（オンライン含む）。
 - ・R6年度における産学官の面談対応実績：延べ772回（オンライン含む）。
- **R4～ キングサーモンの完全養殖研究開発**
 - ・R5年度：キングサーモンの性転換処理個体の作出・飼育に成功。
 - ・R6年度：R4年作出の天然個体由来種苗のオスから精子の採取に成功。
- **R4～ マコブの完全養殖研究開発**
 - ・R5年度：種苗を天然コブに依存する必要なくなる完全養殖に向けた種苗生産技術を確立。
 - ・R6年度：促成第3代目コブの健全な成長確認、完全養殖に向けた種苗生産コア技術を確立。
- **R4～ CREEN人材育成プログラムの構築と試行**
 - ・R5～6年度：CREEN人材育成カリキュラム必須科目の実施、選択科目の構築・試行。
特にR6年度は前倒しで修了者第1号輩出：ディプロマの授与。
 - ・R5～6年度：「函館をもっと良いまち！プロジェクト」に取組む学生団体 ISARIBI withが発足し、地域活性化プロジェクトを実施。
- **R4～ トップレベル人材招へい**
 - ・R5～R6年度：トップレベル人材を招へいして講演会を開催（回数：全6回）、国際的に展開する養殖研究について学生の知見を広げる機会とし、あわせて、研究者間の交流促進。
 - ・R5～6年度：北大水産－ベルゲン大生物学科間で、部局間交流協定を締結（R6.7）。

【今後の取組方針】

- **キングサーモンの完全養殖研究開発**
 - ・孵化したキングサーモン稚魚を使用した中間育成を継続して実施すると共に、目標とする中間育成魚の海面投入を試みる、その過程で得られる養殖技術を確立する。
- **マコブの完全養殖研究開発**
 - ・成熟誘導技術について、各漁協の種苗生産体制にあわせて最適化を検討する等、開発技術の効率化・改良に向けた知見の集積と共に、現場への普及・改良、産業化へ向けた取り組みを行う。
- **CREEN人材育成プログラムの構築と試行**
 - ・CREEN人材育成カリキュラムの受講システム・単位互換・ディプロマ発行、必修科目の単位化等を進める。
 - ・学生団体ISARIBI withの活動や中高生へ対するアウトリーチの実施企画を通じてCREEN人材育成プログラムの充実と認知度向上を図る。

林業バリューチェーンの革新で、生産性・収益性の向上を推進する

【実施状況・現状分析】

- **R6.8-9 フィンランド林業・木材産業調査を実施**
 - ・産官学金が連携した「スマート林業EZOモデル構築協議会」がフィンランドで展開されている先進技術を活用した林業・木材産業の取組について、北海道での適用が可能か現地調査を実施。
- **R6.12 道産木材100%を活用したオープンイノベーション施設が完成**
 - ・森林資源と地域経済の持続可能な好循環に寄与。
- **R7.2 スマート林業EZOモデル構築協議会報告会開催**
 - ・「スマート林業EZOモデル構築協議会」が実証してきた成果や、道がスマート林業を普及してきた内容など、北海道内のスマート林業の取組を発信。

【今後の取組方針】

- **先進的な技術の実証**
 - ・「スマート林業EZOモデル構築協議会」にて、資源管理から造林、伐採、加工までの情報をデジタルでつなぐ北海道らしいスマート林業を確立し、道内各地での実装化を目指す。
- **人材の育成**
 - ・ICT等を活用したスマート林業の技術を扱うことができる人材の育成を図るため、実務的な研修を実施する。
- **先進技術の普及・PR**
 - ・ICT等を活用した先進技術を幅広く普及・PRするため、全道各地でシンポジウム・現地実演会を開催する。